

平らな世界とは

舟木 讓 教授

(宗教哲学、キリスト教学)

社会・世界に誠実に向き合う時、今もなお数えきれない格差、差別が存在し、誰もが安心して、平穩に歩むことができない状態が継続していることが分かる。大きな負担を感じることもない平らな道でなく、いたるところにへこみや陰しい坂、あるいは断崖や絶壁が続く世界となっていると言える。一方で、そのような世界を、誰もが安心して歩める、平らな世界へ変えようとの取り組みもこれまで数多く行われてきている。その一つに「女性」が社会で不当な壁を感じることなく働き、正当な評価を受けることができる世界へと変えるための活動を現在まで継続して展開している組織の一つにBPW (Business and Professional Women) International (1930年スイスのジュネーブでInternational Federation of Business and Professional Womenとしてレナ・マデシン・フィリップス<Dr. Lena Madesin Phillips>氏によって設立)がある。

日本においても1951年に、東京在住の働く女性間での協力関係から始まり、「女性」の地位向上と親睦を目的として誕生した『東京有職婦人クラブ』が原点となり、その組織が発展、1959年にIFBPW (現BPW International) に加盟し、1994年世界での呼称統一に合わせ名称を日本BPW 連合会 (以下BPWと略す) と改称し、現在活発な活動を行っている組織が存在している。BPWでは、各国のジェンダー・ギャップを「世界経済フォーラム」が毎年数値として発表している「ジェンダー・ギャップ指数」に関して、2023年から速報として毎年公表している。2024年に発表された日本の位置づけは、総合的なジェンダー平等性が146か国中、118位となっており、中でも、分野別にみると、政治が113位、経済が120位と極めて低い現状が改めて浮き彫りとなった。この一面だけをみても私たちが生活している日本も、明らかに平らな世界ではなく、私たちが気づいていない、あるいは気づこうとしていない多くの課題が存在していることが明らかである。

しかし、この現状の克服に積極的に取り組まれているところも身近にあり、その一つが中貝宗治氏 (前兵庫県豊岡市長) が市長時代に実施された「男女」職員に対する平等な雇用促進による「ジェンダー・ギャップ」解消への取り組みである。その成果として、豊岡市では、2014年4月1日現在、44歳以下の「男女」職員の割合が均衡に近づいている。

また、一般企業としては、「ダイキン工業株式会社」が、1992年に育児「休暇」、育児勤務制度導入、1993年に「重度『身障』者多数雇用事業所設立」、2018年には「LGBTQ+」に関する管理職対象者研修ならびに人事諸規定改訂など「ダイバーシティ経営促進」を推進されている。

本日取り上げた『聖書』箇所「マタイによる福音書 4章23-25節」には、イエスがガリラヤ中をめぐり、病気や痛みなどで苦しむ人たちを癒されたということが記されている。病などの癒しは重要であるが、それと共に、当時の社会の中で、自らの痛みや苦しみを共に理解し、向き合ってもらえなかった多くの人々にとっては、イエスが、まさにそうした人々の痛みや苦しみ、悲しみ、絶望に真摯に向き合い、そうした人々との真の共生世界を目指そうとされていることが大きな希望と救いになったと言える。

今日の世界もジェンダー・ギャップを始めとして、存在しているのにそれに気づかない、気づこうとしない多くの痛み、悲しみ、怒り、絶望などがまさに身の回りにあることをまず認識し、向かい合うことが、真の意味で、全ての人々が安心して歩むことの出来る「平らな世界」を構築し創造する第一歩であり、同時にそのことを広めていくことが私たち一人ひとりに求められていることと誠実に受け止め、実行する生き方へと自らを変革していくことが求められていると言える。